

ちょっと一言!!

市民の声

広報委員が市民の皆さんに、
行方市に寄せる思いをイン
タビューしました。



● 4月になり日々の気温が暖かく桜の花も咲き心もうきうきしてきます。

私は、旧麻生地区北浦の湖近くに住んでおり、犬の散歩など日々健康に暮らしています。私の地区には良いか悪いか普通通りの自然ですが、少子化の影響で子ども達の数が少ないようです。

3年前の東日本大震災の当時より色々ありましたが、行方市のアピールが薄い様な気がします。私達も何かお手伝いできるシニア世代になれないかと感じています。でも、行方市大好きなおぼあちゃんですよ!! (60代・女性)

● 市内では今、イノシシの話題があります。東日本大震災以降、確実に生息数が増えているようです。原因は定かではないようです。

が、イノシシたちには格好の住みか条件が揃っているのでしょう。農作物への被害や車との衝突、そして人的恐怖を招いているイノシシ君たち。駆除は行われているとのことですが・・・

人間も被害者ならばイノシシたちも被害者なのかもしれませんね。市では人口が減少しているのにイノシシと人間では正反対。市や議会の働きで市民が暮らしやすい町づくりを期待し、人口が増えることを願っています。

● 少年高年齢化時代となりつつある現在、幼稚園・小学校・中学校の統合で、各施設が活用されないままに放置されております。使用されていない学舎は、景観上も防犯上としても、あまりよろしくありません。

せめて幼稚園舎ぐらいのスペースを整備して、各地区に1ヶ所の地区の交流センターの常設を希望します。

市の指導の下、週1回ぐらいの施設の開放で、地区の高齢者のつどいの場として発展すれば、施設の活用と地域の交流が図れて活性化します。 (50代・男性)

● 私は妊婦なのですが、子どもに関する制度がたくさんあり、どれが自分たちに必要か、どこで申請するのか調べるのに困りました。その際、市から利用できる制度を知らせる手紙などをいただけたら助かったと感じます。

また、子どもに関する新しい制度が導入されたとのことですが、こちらも知らない方がたくさんいるようです。多くの方が知り、利用できる環境を作ってもらいたいです。 (20代・女性)

● 玉造庁舎のロビーに議会中のモニターを設置を望みます。「自分たちの生活は、自分たちが守る」それには、まず行方市の現状を知る事から始まると思います。福祉・教育・環境のことなど、いろいろの不満や要望を持つていくのはまずです。

市報や議会だよりなどで発信される情報だけでなく、議会を傍聴することにより、新たな関心を持つ事が出来ます。その手始めとして、市役所のロビーで、より多くの人に議会を観て市政に注目して欲しいと思います。 (60代・女性)

● 自助・共助・公助ということがあります。この中で、まずは自助が大事だと思います。私の亡父は認知症で本人そして家族が苦しみました。当然私は絶対にそうなりたくないと思います。

先日、NHKで脳細胞について、楽器を習い演奏することが脳の活性化に非常に有効だと放送していました。以来、私は止めていたギターを再び始めました。妻にも中学時代やっていたバイオリンを買ってあげようと思っています。生涯健康を願って! (60代・男性)

編集後記

今年3月、玉造地区の六小中学校は、それぞれに長い歴史と伝統を継承してきましたが、新設される統合校にその任を委ね、最後の卒業生を見送り役目を終えました。全ての児童の皆さんが、速やかに新しい環境に馴染み、統合の効果を楽しみ、心身共に健やかな成長を遂げられますことを祈念致します。

また、既に統合された麻生地区、進行中の北浦地区も含め、跡地の整理・利活用等は、課題として残されています。全ての課題の解決が、学校等適正配置計画の完結となります。

市長と行方市のブレインの思いの込められた平成26年度予算案は、予算特別委員会各分科会により慎重に審議され、原案のとおり承認されました。広報委員会では、その経過を限られた紙面の中で、最大限お知らせ出来るよう、読み易さと情報量といった相反する課題を昇華する為の検討をしています。模索的な試みもあると思いますが、お気付きの点ございましたら、ご意見等賜れば幸いです。 (栗原 繁)

広報委員会

- 委員長 栗原 繁
- 副委員長 鈴木 裕
- 委員 大原功坪 小林 久
- 委員 高橋正信 平野 和